様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月２１日現在

機関番号：62618
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2009　～　2010
課題番号：21720169
研究課題名（和文）　埼玉県における方言形成の構造に関する言語地理学的研究
研究課題名（英文）　Geolinguistic Study about the Structure of the Dialect Formation in Saitama Prefecture
研究代表者
鑓水　兼貴（YARIMIZU KANETAKA）
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト特別研究員
研究者番号：20415615

研究成果の概要（和文）：
本研究では、埼玉県を中心とする関東地方中央部地域の言語地理学的調査のデータベース化を行った。データベースは 20 の資料の約 1500 項目からなっている。作成されたデータベースを用いることで、埼玉県方言の分布形成の構造の解明の基礎として役立てることができる。また、これらの地図を組み合わせることによって、埼玉県方言だけでなく、関東方言研究、共通語形成の研究にも貢献できるであろう。

研究成果の概要（英文）：
In this study, I created a database about the geolinguistical survey in the center of Kanto area around Saitama prefecture. It contains about 1500 items of 20 surveys. Using this database, it is useful to clarify the structure of the formation of the distribution of Saitama dialect. By combining these data, it will contribute to progress in the study of not only Saitama dialect, but also Kanto dialect and Standard Japanese.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
総　計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：日本語学
科研費の分科・細目：
キーワード：方言学、言語地理学、方言地理学、国語学、日本語学

１．研究開始当初の背景

埼玉県は関東地方の中央に位置している。関東方言が使用されており、隣接する東京、群馬、栃木、茨城と類似した特徴をもつ。首都近郊の県南東部は、他県からの移住者が人口の大半を占め、共通語化が著しい。県内の大半が関東平野にあり地理的に周辺地域との境界が少ないこともあり、埼玉県の方言研究は、「埼玉県において特徴的な方言現象、地域に注目した研究」と「関東全域から埼玉県を位置づける広域的概要研究」が主流である。

関東方言は現代日本語における共通語の基盤となっている。埼玉県は、共通語の中核区域となる東京２３区と隣接している。東京方言と周囲の関東地方の諸方言とがどのように影響を与え合っているのかを分析する上で、埼玉県方言の詳細な研究は非常に重要である。

２．研究の目的

関東地方各地の詳細地図や、広域地図を組み合わせることによって、埼玉県方言をはじめとする関東方言研究の発展に寄与することができる。また、データベースは地理情報システム（ＧＩＳ）において分析利用し、方言研究におけるＧＩＳを用いた分析方法の発展にもつながる。

埼玉県中央部は、全体としては農村部であり、伝統的方言の残存が多いことが予想される。隣接する県南部は東京通勤圏であるため共通語の影響が強いが、反対側に隣接する県北部や県西部は方言的特色の強い地域となっている。こうした地理的に中間的な地域となる県中央部の言語状況の解明は、埼玉県方言の形成の分析の進展につながる。

首都近郊の方言は、強力な共通語化にさらされ衰退の危機にあり、埼玉県方言もその一つである。埼玉県方言の詳細な研究は、こうした状況下における方言動態を解明する上での核心となる。

３．研究の方法

東京方言と周囲の関東地方の諸方言とがどのように影響を与え合っているのかを分析するために、関東中央に位置する埼玉県方言の詳細なデータ収集を行うことは非常に重要であると考える。

研究は以下のように行う。

(1)資料収集

関東地方における未入手、未電子化の方言地図を中心とする方言調査資料のデータベース構築作業を行う。

埼玉県方言の言語地理学的分析には隣接地域の資料が不可欠であり、そのため埼玉県と接する地域（主に関東地方）における既存の資料とあわせてデータベース化する。

(2) 調査

埼玉県中央部を対象にした調査の実施する。データベースの結果をふまえ、周辺地域との連続性や当該地域における方言的特性を考慮して調査を行う。

(3)調査結果の電子データ化作業

調査結果を電子データにするための入力作業を行う。

４．研究成果

本研究で作成した、関東地方における方言地図資料のデータベースについて概要と利用例を示す。

作成したデータベースは、

(a)埼玉県周辺地域における方言地図調査語形一覧表

(b)埼玉県周辺地域における方言地図項目対照表

の２種類である。(a)は、埼玉県周辺を調査した言語地理学的調査データ（方言地図・グロットグラム等）について、調査項目と回答語形を対照できるようにしたものである。データベースが巨大になるため、項目対照のみを抜粋した(b)も作成した。

データベースは 20 の調査データ、約 2000 の地図・グロットグラムからなる。対照を行った 20 の資料を表１に示す。

略称	方言地図名	発行年	編者
LAJ	日本言語地図	1966-1974	国立国語研究所
GAJ	方言文法全国地図	1989-2006	国立国語研究所
関東	関東地方域方言事象分布地図	1974-1976	大橋勝男
利根川	利根川流域言語地図	1971	井上史雄・加藤正信・高田眞・徳川宗賢
埼南	埼玉県言語地図	1984	柴田武
埼東	埼玉県東部言語地図	2009-2010	亀田裕見
秩鶴	秩父郡市言語地図	1986	鶴田秀樹
秩外	秩父地方方言地図	1978	東京外国語大学日本語ゼミナール
上武1	上武国境地域言語地図	1978	東京成徳短期大学方言研究クラブ
上武2	上武国境地域言語地図	1979	東京成徳短期大学方言研究会
北群	北部群馬言語地図	1984	東京成徳短期大学方言研究会
東京	東京都言語地図	1986	東京都教育委員会
東神	東京・神奈川言語地図	1988	井上史雄
神奈川	神奈川県言語地図	1979	神奈川県立博物館
Q	Qグロットグラム	1991	井上史雄
SF	SFグロットグラム	1985	井上史雄
常磐	常磐国境地域言語地図	1982	東京成徳短期大学方言研究会
山梨	山梨県言語地図集	1988	永瀬治郎
郡内	山梨県郡内地方言語地図	1986	都留文科大学方言研究会
東金	千葉県東金市近傍方言地図	1986	学習院大学方言研究会 日本大学方言研究会

表1・データベースの方言地図一覧

広域調査の地図は、全国レベルの「日本言語地図」「方言文法全国地図」、関東全域の「関東地方域方言事象分布地図」があり、この３つの地図を基本として対照を行っている。

埼玉県を取り扱った地図としては、秩父地域の「秩父郡市言語地図」「秩父地方方言地図」「上武国境言語地図(1)(2)」、東南部地域

の「埼玉県言語地図」「埼玉県東部言語地図」「利根川流域言語地図」の６つ（７種類）である。このほか、埼玉県の周辺地域（東京・神奈川・山梨・千葉・群馬・茨城）から８つの資料を、また、グロットグラムとして２つの資料をデータベース化した。

調査項目数は、異なりで 1514 項目になる。この全項目と回答語形を入力（すでに公開されているものはそのデータを利用）し、これらの項目について対照を行った。

表２は、データベースからの抜粋である。

	地図名	埼玉県言語地図			埼玉県東部言語地図			
	項目名	項目番号	項目名	回答語形	地図番号	項目番号	項目名	回答語形
159	たけうま(竹	57	竹馬	タケアシ;ビッ				
160	おてだま(お手	100/101	お手玉遊び/	ナッコ、オテダ	27	語彙項目37	おてだま	ナッコ;ナッコ
161	おてだま・か	100/101	お手玉遊び/	ナッコ、オテダ	27	語彙項目37	おてだま	ナッコ;ナッコ
162	おてだまあそ	100/101	お手玉遊び/	ナッコ、オテダ				
163	おにごっこ	74	おにごっこ	オニゴッコ	28	語彙項目38	おにごっこ	カクレンボ;カ
164	かくれんぼ(隠				29	語彙項目39	かくれんぼ	オニゴッコ;
165	かくれんぼ(隠				29	語彙項目39	かくれんぼ	オニゴッコ;

表2・データベースの例

各地図ごとに、項目番号（地図番号を示すこともあり）、項目名、回答語形（見出し語形のみの場合もあり）の一覧からなり、実際の地図画像を見ることも可能である。

しかし、データベースのサイズがかなり大きくなることや、閲覧性に欠けるため、質問項目の対照だけからなる抜粋版を作成している。

多くの地図で調査対照となっている項目は以下のとおりである。

項目名	数
かまきり(螳螂)	13
かたつむり(蝸牛)	13
ひきがえる(蟇・蟾蜍)	12
かたつむり(蝸牛)	12
かたあしとび(片足跳び)をする	11
ものもらい(麦粒腫)	11
おてだま(お手玉)	11
かたぐるま(肩車)	11
つらら(氷柱)	11
おたまじゃくし(蝌蚪)	10
とかげ(蜥蜴)	10
しあさって(明明後日)	10

表3・多くの地図にある項目

また、「日本言語地図」にない項目で、このデータベース、すなわち埼玉県周辺部での調査項目となっている項目は以下のとおりである。

項目名	数
霜柱	7
じゃんけん	7
めんこ	7
ありじごく	7
大工	6
来ない	5
赤とんぼ	5

表4・「日本言語地図」にない代表的項目

データベースの利用例として、11 の地図で採用されている項目「おてだま」について、示す。

図１「日本言語地図」や図２「関東地方域方言事象分布地図」といった広域調査の場合、埼玉県の地点数は少なくなってしまう。

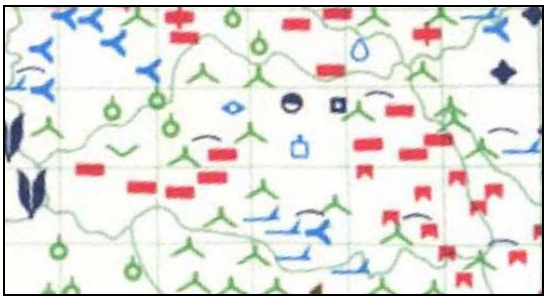

図1・「日本言語地図」

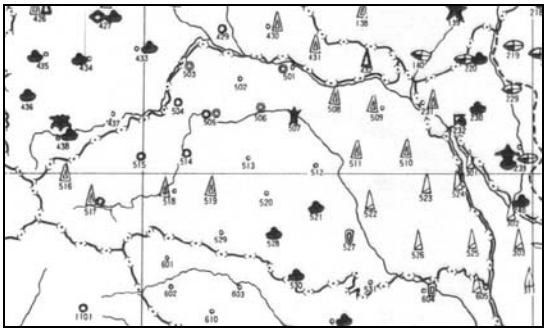

図2・「関東地方域方言事象分布地図」

「おてだま」は狭い範囲に複数の語形が分布している。しかし、どちらの地図も埼玉県内の調査地点の間隔が荒いため、詳細な分析には適さない。

一方、埼玉県の方言地図では、「おてだま」は５つの調査（上武国境地域言語地図を１つとみなす）が実施されている。個々の地図の調査地点が精密であり、同一項目の地図を組み合わせることで、大量の地点の大きな地図となりうる。

以下に、詳細地図を示す。

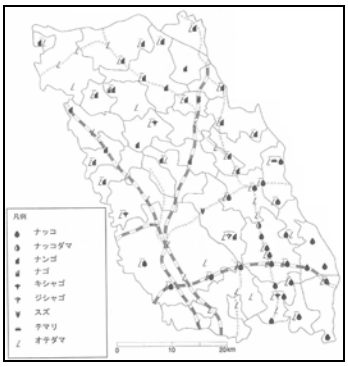

図3・埼玉県東部言語地図

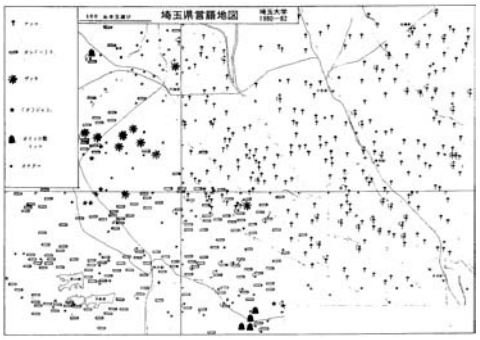

図4・埼玉県言語地図

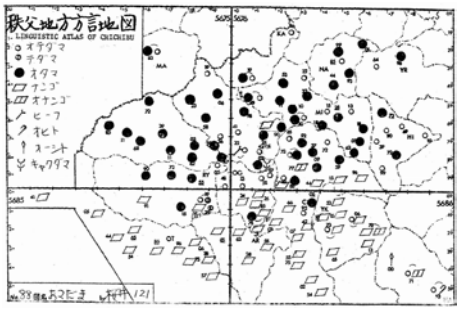

図5・秩父地方方言地図

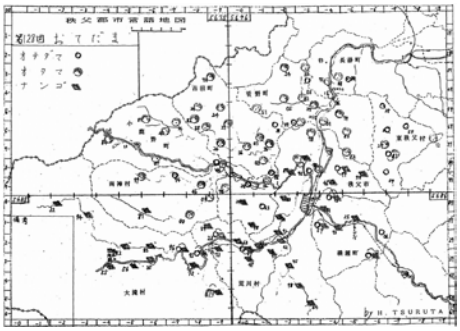

図6・秩父郡市言語地図

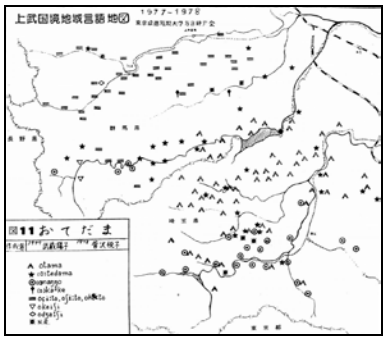

図7・上武国境地域言語地図

以上の５つの地域は、東部（図３）、南部（図４）、西部（図５・６・７）であり、組み合わせても北部・中央部が欠けている。

広域地図（図１・２）を見ると、北部に語形の境界線があることや、中央部に特殊な語形があることがわかるため、北部・中央部の詳細調査が有用であることがわかる。

調査データとの統合は、今後も継続し、このデータベースを将来的には公開していきたいと考えている。

また、調査についても調査地域は、埼玉県全域から隣接都県にも広げ、調査対象を高年層と中年層など複数の世代にすることで、重層的な研究ができると考える。その際に、本研究における埼玉県中央部のデータは基盤となると思われる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計２件）

①鑓水兼貴、『方言文法全国地図』における話者の年齢差にあらわれる文法変化、日本語学会 2010 年度秋季大会、愛知大学

②鑓水兼貴、方言調査データのXMLによるデータベース化、第 88 回人文科学とコンピュータ研究会、国立国語研究所

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

鑓水　兼貴（YARIMIZU KANETAKA）
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・時空間変異研究系・プロ
ジェクト特別研究員
研究者番号：20415615